【査読論文】

２歳児におけるリトミック活動の動きの分析
－Ａちゃんの行動変容に注目して－

高牧 恵里（武蔵野大学 教育学部 准教授）
松井 いずみ（明星大学 教育学部 特任准教授）
荒金 幸子（上野学園短期大学　千葉経済大学短期大学部 非常勤講師）

要約

本研究では、２歳児のリトミック活動について一人の子どもの動きを追い分析を行なった。その結果、表出と表現の間を行き来しながら徐々に主体的な表現へと変容していく様子や、身近な人との関わりによって、模倣の動きから意思を持った独自の動きが生まれていく過程が確認できた。

２歳児のリトミック活動は、発達の過程と、「様々な表現の仕方や感性を豊かにする経験となるようにすること」や「諸感覚を働かせることを楽しむ遊び」を十分に考慮したものであることが大切である。本研究からは、その上で身近な大人がどのように子どもの表出を受け止め、表現の芽生えに気づき寄り添っていくかが重要であることも確認された。

１．はじめに

一般的に２歳児は自己主張をすることが増え、自分の力でやりたいと思うことが増える。２歳児の姿として「段差や斜面などでの歩行や走行、飛び降りなどの運動機能が発達し、シールをはがしたり指先に力を入れて紙を折るなど手指の制御が進む。また、象徴機能の発達により、積木を食べ物に見立てるなどのあそびが盛んになり、それらを表現する語彙も増加する。単語から二語文、さらには『大小』『長短』などの二次元的な概念および自他を区別する二次元的認識を獲得する。この時期は、何でも自分でしようと強く主張するとともに、自分の気持ちが尊重され、自分を認めてもらうことを求める姿」[1]などが挙げられる。また、表現の視点から見た発達過程としては「両足でピョンピョン跳ぶ。童謡に節をつけて部分的に歌う。赤、青などの色の名前がわかり、その正しい色をさす」[2]などがあげられる。

近年、３歳未満児を対象としたリトミック教室が盛んであり、インターネット上でもその様子を視聴することができる。しかし、そのほとんどが親と共に行うリトミックであり、講師と保護者が作る空間の中で、子どもと保護者が触れ合い

自体を楽しむものになっている。

一方、本研究で対象となる２歳の女児Ａちゃんは、１～２歳児の子ども 12 名、保育者３～４名という保護者を伴わない環境の中で活動を行った。保育室は広いスペースとその横の区切られたスペースがあり、参加は自由であるため、保育者に寄り添われて見学している子どもや、両方のスペースを行き来している子どももいた。そのような自由で安心できる環境の中で、Ａちゃんが自ら音を聴き、音楽を感じ、主体的に活動を行ったものを記録した。

保育所保育指針における３歳以上児の「表現」で留意すべきこととして、「様々な表現の仕方に親しんだり、他の子どもの表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切にして自己表現を楽しめるように工夫すること」とあるのに対して、１歳以上３歳未満児の「表現」で留意すべきことしては、「子どもの表現は、遊びや生活の様々な場面で表出されているものであることから、それらを積極的に受け止め、様々な表現の仕方や感性を豊かにする経験となるようにすること」や、「発見や心が動く経験が得られるよう、諸感覚を働かせることを楽しむ遊びや素材を用意するなど保育の環境を整えること」としている。[3] ２歳児の発達の過程と、「様々な表現の仕方や感性を豊かにする経験となるようにすること」や「諸感覚を働かせることを楽しむ遊び」を十分に考慮し、活動の計画を立てた。

２歳児のリトミック活動をテーマにした先行研究としては、保育者の表現が乳幼児の表現に影響を及ぼすことを明らかにした「保育の場における身体表現に関する研究動向 ―リトミック活動を通して―」[4]や、リトミック活動の観察から模倣の分析を通して、子どもたちの心身の発達への影響を検討した「保育園におけるリトミック活動の実践と１、２歳児の模倣行動の発達的変化の検討」[5]、そして保育施設におけるリトミックの実践から、子どもが何を学び、何が育っているのかを論考した『子どもの主体的な身体表現を引き出すリトミックの保育実践研究（第一報）：保育施設における１・２・３歳児学級の事例を中心にして』[6]などが挙げられる。しかし、一人の子どもの動きを追い、分析した研究は管見の限り見当たらない。

２．本研究の目的

２歳児のリトミック活動の中で、特にＡちゃんの動きを分析することで、表出から表現へと変容していく様子や、模倣の動きから徐々に独自の動きが生まれていく過程を明らかにしていく。

３．研究の方法

2023 年 10 月と 11 月にM大学附属保育園１～２歳児 12 名の園児と行なった２回の活動について、参与観察と非参与観察を併用しながら複数の機器で撮影し、映像と写真をもとに動きの分析と考察を行なった。活動は自由参加で、子どもたちの発達や、保育における生活時間に配慮しながら１回につき 20 分程度として実施した。本研究では、その中で映像に多く写っていた A ちゃんに焦点を当てることとし、動きの傾向などを分析しながら動向を探っていく。本研究に関して、主旨を説明した上で園と保護者の同意を得ている。

４．保育園とＡちゃんについて

M大学附属保育園には１歳児６名と２歳児６名が在籍している。普段、特にリトミック活動は行っていないが、わらべうたを歌う機会が多く、子どもたちは音楽に慣れ親しんでいる。本研究の活動時には随時３～４名の保育者が同席し、子どもたちと程よい距離を保ちながら一緒に活動している。

Ａちゃんは、普段からごっこ遊びや歌が好きで、季節の花などにも興味を持っている。また、戸外でも活発に過ごし、兄弟が頑張っているサッカーを「自分もやってみたい」と表現するような積極的な女の子である。

５．活動の内容

筆者の一人である講師は、１回目の活動の当日に初めて子どもたちと出会った。壁面に飾られていた子どもたちの「どんぐり」と「どじょう」の作品を一緒に見ながら、拾い集めてきた様々な大きさのどんぐりを見せたりして、会話をすることから始めた。次に、わらべうた《どんぐりころちゃん》で遊び、童謡《どんぐりころころ》を一緒に歌った後に、下記の活動へとつなげた。

（１）即時反応「散歩」

主な活動内容：講師の「お散歩に行きましょう」という声かけの後、子どもたちは４分音符の音楽で自由に歩く。音楽がランダムに停止し、少し待った後、再度４分音符の音楽で自由に歩く。途中で「どんぐり見つけたよ」という声かけがあり、合図の和音が鳴る。講師が頭の上で両手を合わせ、どんぐりのポーズをして示し、子どもたちが模倣をする。どんぐりの合図の音は、「大きいどんぐり」や「小さいどんぐり」を表すためのニュアンスの違いがあり、子どもたちは次第にそれを聴き分け、模倣ではなく自らポーズをするようになる。しばらくして、ど

じょうを表す《クネクネの音楽》が加わる。時々、音楽が止まるのみで合図の音が何も鳴らないこともある。講師は活動の最初のうちはポーズを示すが、途中から示すことなく、子どもの様子を見た後に一緒にポーズをする。また、子どもたちが表現する姿に近寄り、驚きや共感を伝える。

（２）わらべうた《こまんか》

主な活動内容：歌いながら、指や手、そして腕や全身を使って波の動きを表現する。最初は音楽のフレーズやダイナミクスを感じるように、講師が下向きの弧を描くように両手を左右に振る動きを示し、その後は、どのように動いたら良いと思うか子どもに問いかけ、子どもの動きを取り入れていく。曲に慣れてきたところで、スカーフを揺らして波を表現する。

（３）即時反応「おばけ」

主な活動内容：スカーフを持った子どもたちが遊びながら被り始めたため、講師は子どもたちの様子に合わせ、短調の音楽を用いて２分音符で《おばけの音楽》を演奏する。決まった動きはなく、子どもたちは自由におばけを表現する。しばらくして、長調の音楽で４分音符の《元気に歩く音楽》に変わる。

その後、スカーフを丸めてどんぐりを作ったり、リズムに合わせてスカーフを投げ上げたりする活動も行った。今回、観察・分析の対象とした活動は、10 月、11 月の２回とも同じ内容で行ったものから選択した。

６．リトミック活動における動きの視点による分析

活動内容とＡちゃんの動きを示した「表１」の中で「表現」や「発達」の視点から特に注目したい箇所に下線を引く。さらに「音楽的要素」の視点から特に注目したい箇所には、文字を斜体にした上で下線を引く。また、講師の言葉かけは「　」、音や音楽については《　》で示す。

「表１」

1回目の活動	
・活動内容 《音楽》 「言葉かけ」など	Aちゃんの動き・様子
（他の活動）	
・即時反応「散歩」 「お散歩に行きましょう」 《歩く音楽》	保育者と手をつなぎ立ち上がる。腕を振り歩く。足取りは音楽の速さよりもゆったりしている。
《音楽を止める》	
《音楽を止める》	ゆっくり止まる。ニコニコした表情で周りを見渡す。
《歩く音楽》	周りを見ながらゆっくりと歩き始める。
《音楽を止める》	体を横に揺らすようにしながら止まる。嬉しそうな表情で保育者を見る。その場で小さなジャンプを繰り返す。
《歩く音楽》	保育者と腕を振りながら歩き出す。
《音楽を止める》	音楽と共に止まる。声を出してその場で小さなジャンプを繰り返す。
《歩く音楽》	手をつないだまま、両足でジャンプしながら前に進む。ジャンプは徐々に大きく力強くなる。
《音楽を止める》	講師の様子を確認した後、周りの子の顔や動きの様子を見る。
《歩く音楽》	つないだ手を離さず、その場でジャンプを続ける。ジャンプが細かくなり数が増え始める。 口を大きくあけて手を添え、楽しい気持ちを表出している。
《音楽を止める》	ジャンプを止めずにいる。
《歩く音楽》	膝を深く曲げながらジャンプで移動する。
《音楽を止める》	両足を揃えて止まる。
「どんぐり見つけたよ、これは大きいどんぐり」 《大きいどんぐりの音》 「どんなどんぐり？」 →少し間をあける。 →ポーズを見せる。 子どもたちの様子を見て 「すごい！大きい！」	講師に注目をした後、背筋を伸ばし頭の上に両手で三角を作る。どんぐりのポーズを作りながら大きなジャンプ、小さなジャンプを繰り返す。
《歩く音楽》	保育者の手を離し、一人で歩き始める。腕の振り、*足取りは音楽に合い始める。*
《大きいどんぐりの音》	音楽が止まった後、5歩ほど多く歩いてから、どんぐりのポーズをする。両足を大きく広げ腰を落とした姿勢から、模倣以上の大きいどんぐりを表現する。周りを少し見る。 両手を口に当て、嬉しそうに前後にジャンプをする。
《歩く音楽》	ピアノの方を見ながら、腕を大きく振り力強く歩く。
「これは？」 《小さいどんぐりの音》 →少し間をあける。 座ってポーズを見せる。	*素早くしゃがみ込み、*講師をよく見て模倣をする。肩を縮めて顔の前で両手を小さく組み合わせ、小さいどんぐりを表現する。 講師がピアノの元へ動いても、背中をまるまめたまま、小さいどんぐりを表現している。
《歩く音楽》	音楽が鳴り出して4拍ほどは、小さいどんぐりの形のままお尻を揺らして音楽を聴いている。 立ち上がり、両手を上にあげたり、膝を高くあげて細かいステップをしながら、踊るようにして歩き出す。
「これはなあに？」 《小さいどんぐりの音》 「あら、これは小さいわね」とAちゃんに声をかけに行く。	音楽と共に素早く止まり、次の音を待つ。小さい音を聴き、両手を口に当てた後、座って小さいどんぐりを表現する。
《歩く音楽》	講師の動きを見て音楽が鳴るタイミングを予測し立ち上がり、合わせて歩き出す。足を後ろ側にあげるようにして歩き方に変化が見られる。4分音符の音楽よりも遅いステップ。 満面の笑み。音楽が止まると、少しよろけながらすぐに止まる。振り返るようにしてよく見ようとしている。
「これは？」 →《大きいどんぐりの音》 「すごーい」	大きいどんぐりの音を聴き、一度大きくジャンプをしてから、両足を広げ、膝を深く曲げる。 両手は、講師の手や肘の使い方を模倣し、肘を曲げ頭の上で手を合わせる。肘を横に張って大きさを表す。講師がそばまで見に来た時には、頭の上の手を少し離して揺らし、どんぐりの大きさを表現する。
《歩く音楽》	しばらく大きいどんぐりの形を崩さず周りを見ている。

「どうしようかな？」 →少し間をあける。 →《大きいどんぐりの音》 《歩く音楽》	膝を曲げて構えた状態で、ピアノの音を待つ。大きな音を聴き両手を口に当てる。講師の方を見てから、より大きなどんぐりを表現するようにジャンプし、伸びを大きくする。その後、足を徐々に横に広げ、更に大きなどんぐりになろうとする。 他の子どもの顔を見ながら、腕、足を大きく動かして歩く。リズムに合っている。
《音楽を止める》 →少し間をあける。 《小さなどんぐりの音》	*ピアノを見ず周りを見ながら音を聴いて止まる。*次の音を待ちピアノの方を見て、小さな音を確認してから座り、小さいどんぐりのポーズをする。体を小さく丸めるようにしゃがみ込み、ひじを閉じて模倣に工夫を加えた表現をする。
《歩く音楽》 「クネクネどうする？」 《クネクネの音楽》 両手を合わせクネクネ動かして見せる。	肘を曲げでリズムをとるように歩く。歩き方が安定してくる。 足を前後に開き、膝を曲げて、音を待つ。*音を聴き、「わ！」と声を出し、両腕を上にあげねじるように身体を左右に揺らす。* 両手をクネクネさせている講師の様子を見て真似をする。
《歩く音楽》 《クネクネの音楽》	両手を振り、周りを見ながら足踏みをする。 足を止め、音を聴いて「こだ！」という声を出し、そばにいる保育者に笑いかけクネクネの動きを見せる。背中を丸めながらお尻まで動かす。
《歩く音楽》 「これは？」 《大きいどんぐりの音》 「大きーい！」 《歩く音楽》 「一番大きいのは？」 《一番大きいどんぐりの音》	クネクネの手の形のまま止まり、周りを見ている。 音を聴き「きゃー」と声を出し直後に跳ね上がり、背筋をピンと伸ばした大きなどんぐりを作る。両足で数回大きなジャンプをし、足を大きく開いたまま止まる。 *音に反応する時間が早い。* 足の裏で強く踏みつけるように一人で歩く。音楽と多少のずれがある。 しゃがみ込んで音を待つ。音に反応し、素早く背伸びをして、つま先で立ち、胸を大きく張り、手を高く伸ばし、大きなどんぐりのポーズをする。バランスをとりなら大きなどんぐりのポーズを作り続ける。
・わらべうた《こまんか》 講師がピアノから離れ正座をして、《こまんか》を歌い始める。「お水がちゃぽーん、ちゃぽーん」と声がけしながら人差し指を出し、下向きの弧を描くように動かす。	同じように正座姿勢をとり、すぐに両手人差し指を出して真似をする。人差し指は上向きで、歌に合わせて左右に直線的に動かす。自分の指を見ながら、どのように動かせば良いか考えている様子。
小さい《こまんか》 大きい《こまんか》 両手を振り上げる。	正座のまま両手の小指を出し、肩をすぼめ顔に付けるようにしてじっと講師を見つめる。 講師をよく見ており、「どうぞ」に合わせて両手を振り上げ準備をすることができている。講師が両腕を下向きの弧を描くように動かしているのをよく見て、片方の腕をあげ、もう片方の腕を胸の前に折り曲げることを左右で繰り返し、同じようにしようと試みているが、直線的な動きになる。指を開いて手のひらにも大きさが表れている。
「もっと大きな波は？」 →子どもの動きを取り入れる。→もっと大きい《こまんか》	講師の問いに対して、両腕をあげ、頭の上で大きなマルを作るようにして見せる。 講師と共に立ち上がり、両手を高くあげたまま指を大きく広げる。弧を描くことができず、片手ずつ高くあげ、もう片方を胸の前に折り曲げる動きを繰り返す。
・スカーフを配る スカーフをかぶる子どもが多かったため、「みんなおばけになるの？」	自由に遊ぶ。 スカーフを被り講師に近づく。
《おばけの音楽》	音楽が鳴ると向きを変えて、周りを見ながら身体を左右に少し揺らし、少しずつ前に進む。
《元気な音楽》 《おばけの音楽》 「あれー、わあー、おばけがたくさんいる」	*スカーフを被ったまま両手を振って歩く* スカーフを被ったまま、他の子どもたちとゆっくりピアノの傍に近づく。
《元気な音楽》	ピアノから1歩下がり間隔をあけ、スカーフをかぶったまま、音楽を聴き、音楽に合わせて手拍子をする。
・スカーフを使って《こまんか》 《こまんか》を歌いながら下向きの弧を描くようにスカーフを揺らす。	講師と同じように左右に振る。動きは直線的で音楽には合わない。
小さい《こまんか》 「大きいのは？」 大きい《こまんか》	前屈みになりスカーフを顔前で小さく揺らす。音楽には合わない。 講師の問いかけに対し、スカーフを両手で高く持ち上げて見せる。 スカーフが大きく扱いづらいため、動きの方向は左右上下ランダムになり、音楽に合っていない。立った姿勢のまま、膝や足首は動かしていない。

「一番大きいのやってね」 →ピアノ伴奏をする。 小さい《こまんか》(ピアノ伴奏) 大きい《こまんか》(ピアノ伴奏)	スカーフを上下左右前後ランダムに大きく動かす。 スカーフを弧の形に動かすことができている周りの子どもを見る。他の子がスカーフを手の中に丸めているのを見て真似をする。 スカーフを思い通りに動かす事ができず、広げて持ち、周りを見ながら何かを探しているような様子。
(他の活動)	
スカーフをかぶっている子どもを見て「おばけやりたいの？」 《おばけの音楽》 《元気な音楽》 《音楽を止める》 《元気な音楽》 《音楽を止める》 《元気な音楽》 《音楽を止める》 《おばけの音楽》 《元気な音楽》 《音楽を止める》 《元気な音楽》 《音楽を止める》 《元気な音楽》 →少し遅くして止める。 「またどんぐり来てもいい？」 →少し間をあける。 →《小さいどんぐりの音》 《元気な音楽》 《小さいどんぐりの音》 《元気な音楽》 《大きいどんぐりの音》	講師の問いに対して「うん」と頷き自らスカーフを被ってヨロヨロと歩き出す。 *スカーフを頭から外し、音に合わせ踏みしめるように歩く。* 数秒後経ってから、音が止まったことに気づき、「止まった」と言って講師を見る。両足を止め、膝を小さく上下に揺らし嬉しそうにする。 *スカーフを振り、下に降ろすタイミングで強めにリズムをとるようにしながら歩く。* 音と一緒にすぐ止まる。膝を少し曲げて次の音を待つ。 周りの様子を見ながら、腰を屈めて歩く。 「止まった！止まった！」と声を上げる。 手に持っていたスカーフを広げてゆっくりかぶる。両手を前に出して垂らし、他の小さな子どもに向かって近づく。その後、両手を頬に添えて周りを見渡し、少し離れた保育者に「わあ」と言って小走りで近づく。 保育者と笑顔でアイコンタクトをした後、スカーフを取り、周りの子どもの様子を見る。足を後ろ側に蹴り上げるようにしながら両手を前後に振り、力強く満足気に歩く。リズムに合っている。 止まってから「きゃあー」と大きな歓声を上げる。 スカーフを持って手を高くあげながらジャンプを繰り返した後、リズムにのって歩き出す。 他の子どもの歓声に一度止まり一緒に笑う。 足を後ろ側に蹴り上げるようにしながら歩き出す。リズムに合っている。*ピアノが少し遅くなると足の動きを合わせる。* 音が止まり講師に注目し、問いかけに対してすぐにうなずく。小さい音が鳴ると、誰かの模倣ではなく、自ら小さなどんぐりを表現する。腰をかがめ、背中を丸めてスカーフを体の前でにぎりしめる。 *ピアノの方を見ず、音だけを聴いて歩き出す。* 音に気づき自ら腰を落とした後、ピアノの方を見て確認する。次の音が鳴り出すまで、小さいどんぐりのポーズのまま、じっと待つ。 リズムに合わせて歩きながらピアノの方を見ている。 次の音を待ち期待している様子。 少し膝を曲げ溜めた姿勢から大きくジャンプする。歓声をあげながら丸めたスカーフを持った腕を上にあげ高く伸びる。
(他の活動)	

2回目の活動	
・活動内容 《音楽》 「言葉かけ」など	Aちゃんの動き・様子
(他の活動)	
・即時反応「散歩」 《歩く音楽》 《音楽を止める》 《歩く音楽》 《音楽を止める》 《歩く音楽》	保育者を誘い出すように手を引き歩き出す。 保育者と手をつないだまま足を止める。 足の裏で床を強く踏みしめるようにリズムをとりながら歩く。 笑顔で保育者の顔を見ながら手を離し、嬉しそうに数回ジャンプして床に座り込む。 直ぐに立ち上がり一人で足を高く上げて歩く。

《音楽を止める》	音が止まるとすぐに動きを止める。歓声をあげながら、足をバタバタさせる。
《どんぐりの音》 どんぐりのポーズを見せる。	講師の話を聞き、歓声をあげながらどんぐりのポーズをした後に座り込む。
《歩く音楽》	両手を上にあげて歩き出す。
《どんぐりの音》	どんぐりのポーズを作りながら、膝を曲げ伸ばしして体を上下に揺らす。
《歩く音楽》 《音楽を止める》	肘を曲げ動かしながらジャンプをするようにリズミカルに歩く。
「ちっちゃいどんぐり！」 《小さいどんぐりの音》	止まった後周りを見渡す。
《歩く音楽》 「大きいどんぐりー！」	片手を大きく振り、足をあげて歩く。
《大きいどんぐりの音》 「わあー、大きいどんぐりだった～」	歓声をあげてジャンプをし、伸びあがるようにしてどんぐりのポーズをする。大きく背伸びをして、後ろによろめく。そのまま後ろに歩いて自転する。
《歩く音楽》 「これはどっちかな？」 →間をあける →《大きいどんぐりの音》	片手を大きく振り、足をあげて音を立てて歩く。 音を確認した後、歓声をあげてジャンプをし、伸びあがるようにしてどんぐりのポーズをする。再び大きく背伸びをしてよろめき、バランスをとりながら5歩下がる。
《歩く音楽》 《音楽を止める》 《小さいどんぐりの音》	保育者の顔を見たり周りを見たりしながら足を高くあげて歩く。 音が止まると顔の横に両手を広げて「あ！」と笑う。 しゃがみ、肩をすぼめ、顔の前で手を組み、小さなどんぐりを表現する。 小さいどんぐりのポーズのまま腰を屈めて前に進み、他の子供たちと関わろうとする。
《歩く音楽》 「これはどじょうだよ」 《クネクネの音楽》 「こんにちは。どじょうが出てきました～」	小さいどんぐりの姿勢のまま数歩進んだ後、立ち上がり元気よく歩く。 「きゃー！」と声を出し、両手を上にあげ、小さく走る。 その後、歩きながら両手を顔の前で合わせ、肘を張るようにしてクネクネさせながら歩く。 保育者と目を合わせる。 講師の真似をして、おじぎをするような「こんにちは」のポーズをする。
《歩く音楽》 「これなんだ？」 《クネクネの音楽》 「どじょうが出てきた～」	片手を大きく振り、足をあげて音を立てて歩く。 自主的にどじょうの表現をする。 クネクネする動きが音楽と合っている。 保育者と目を合わせ、どじょう同士（指先）をくっつけて「あはは！」と声を出して笑う。
《歩く音楽》 《音楽を止める》 →間をあける 「あれ、何もなかったね」	保育者ともう一度どじょうを合わせようとする。 音が止まると同時に「あ！」と声を上げ、足を前後に開き歩く動作のまま止まる。
《歩く音楽》 《大きいどんぐりの音》	音を立てるようにして歩く。 歓声をあげ、両手を合わせ上に大きく伸び、つま先で立つ。バランスをとるためにつま先のままヨロヨロ歩く。
《歩く音楽》 《クネクネの音楽》	片手を大きく振り、楽しそうに足で音を立てながら強く歩く。 すぐにどじょうの動きをしながら、先ほどの保育者の元へ駆け寄って行き、どじょう同士を合わせる。歓声をあげ、もう一度くっつけようとする。
《歩く音楽》 《音楽を止める》 →少し間をあける。 →「なんにもなかったねー」	音に合わせて軽快に歩く。 片足を後ろに大きく引き、膝をついて止まる。「なにもなかった」ことを表現している様子。
《歩く音楽》 《小さいどんぐりの音》	両手を顔の横に近づけ、天井を見るように頭を上下させながら歩く。 足踏みは力強いが、上体はリラックスしている。 音を聴いてすぐに小さいどんぐりを作りしゃがみ込む。音に対しての反応が早くなる。 小さいどんぐりポーズのまま、しゃがんで歩き、保育者に近寄る。
《歩く音楽》 《クネクネの音楽》 《歩く音楽》 《大きいどんぐりの音》 →少し間をあける。 →「よく分かったね。今のは大きいよね」 《歩く音楽》	音にしっかり合わせて歩く。 両手をでどじょうをつくり、手をしっかりクネクネさせる。 膝で歩き移動する。 保育士と手をつなぎ、支えてもらいながら、あいている方の手を高く上げ、体を反らせながらつま先立ちで伸びあがる。 保育者と手をつなぎ、腕を元気よく振りながら歩く。

《音楽を止める》	保育者と手をつないだまま止まる。
「一番大きいどんぐり！せーのっ！」 《一番大きいどんぐりの音》	「あ～あ～！」と歓声をあげながら伸びあがった後、前に倒れこむ。
・わらべうた《こまんか》 両手人差し指を揺らしながら歌う。	座って友達と体を寄せ合い、講師の動きに注目する。
「お母さんさん指出してね」→《こまんか》を再度歌う。	正座をして、胸の前に人差し指を出し、集中して講師の真似をする。 人差し指を曲げ伸ばししたり、肘を使ったり首や上半身を小さく揺らしたりして左右に動かす。下向きの弧を描くことはできず、直線的で複雑な動きをしながら探っている。
小さな《こまんか》を歌いながら動きを見せる。	顔の前に小指を出し、肩をすぼめ動きを真似する。肘を小さく揺らして音楽によく合わせて振り始めるが、途中から自分の鼻の前に両手の小指を寄せて付け、更に肩をすぼめて動きを止める。
「ちょっと大きくしたいな」→子どもの動きを取り入れる。→両手を開いて《こまんか》	両手を指先まで大きく広げた状態で歌が始まるのを待つ。 両手で下向きの弧を描けるようになる。 *動きが音楽によく合っている。*
「もっと大きいのは？」→子どもの動きを取り入れる→もっと大きい《こまんか》	講師の問いに対して、指を広げた両手を前にまっすぐ伸ばして、自らの動きを見せる。 正座をしたまま、胸を広げ、歌に合わせて両手を高く大きくねじるように振る。
「もっと大きいのはどうすればいいかな？」→子どもの動きを取り入れる。→立ち上がって《こまんか》	講師の問いに対して、両手をあげながら座った姿勢から膝立ちになる。 立ち上がり、両腕を高くあげたまま揺れる。
「一番大きいのは？」子どもの動きを取り入れる。→ジャンプをして《こまんか》	講師の問いかけに対して、両腕を高くあげたままジャンプをして見せる。 胸を張り、両腕をあげピョンピョンとジャンプを繰り返す。
・スカーフを使って《こまんか》（立った姿勢） 小さい《こまんか》 大きい《こまんか》 もっと大きい《こまんか》	歌を口ずさみながら、フレーズに合わせて左右にスカーフを振る。 *スカーフの動きが音楽に合っている。* スカーフを短く持ち直し、前かがみの姿勢で短く持ったスカーフを左右に振る。 スカーフを広げじっと見ている。 再び、スカーフを動きやすいように持ち直し、左右にしっかりアクセントとりながらリズムと合わせ振る。
（他の活動）	
・スカーフを持って即時反応 《おばけの音楽》 《元気な音楽》 《おばけの音楽》 《元気な音楽》 《音楽を止める》 《元気な音楽》	スカーフを被りそろりそろりと歩く 明るい表情をしながら、両足で細かなジャンプを繰り返す。 *音楽を聴き即時に判断をし、丸めて持っていたスカーフを広げ顔の上にのせて被る。* 両手を顔の前に垂らし、おばけのポーズを作り、膝を曲げ腰を丸め、音楽に合わせながら保育者の方へそっと進む。その後、向きを変えて周りの友達に向かって行く。再度向きを変え、つま先から静かなジャンプをして保育者に近づき、スカーフ越しに顔を寄せる。 頭からスカーフを取り、上下に大きく動かしながら足取り軽く進む。 *膝の曲げ伸ばしやスカーフの動きが音楽に合っている。* *音が止まるとすぐに体全体の動きを止める。* 足踏みをしている。スカーフを持ち替えたり広げたりして、一度に多くの動作をしている。
（他の活動）	

７．考察

（１）即時反応「散歩」

１回目の活動の冒頭で保育者と一緒に音楽に合わせて動き始めるが、保育者と一緒に行動しているため、安心して音楽に合わせた動きを楽しんでおり、音楽に合わせて歩いたり、止まったりすることの面白味を次第に感じ、動きとなって表出し始めている。２歳児の社会性の発達とその目安「他の子と平行遊び」の項

目にもあるように、友達の様子も窺いながら行動しているが、「自分であそびを見つけ、取り組む」[7]の発達の視点で見ると、「散歩」の面白味を感じて、次第に保育者から離れて一人で音楽に合わせた動きを始めており、活動が変化している。

２回目の活動では、音楽を聴いて感じた動きを表現しており、保育者を誘い出すように手をつないで歩きだす姿が見られ、他者と音楽の体験を共有しようとしていた。

１回目の「どんぐり」の活動の際には、「大きいどんぐり」や「小さいどんぐり」を講師の動きの模倣から、自ら表現したい動きへと変化している様子が見受けられた。２回目の活動では、音楽を全身で受け止めているようで、弾むような音楽のイメージからどんぐりのポーズがさらに変化してきた。「大きいどんぐり」「小さいどんぐり」の動きでは、歓声を上げてジャンプし、伸び上がるように体を使い、よろめきつつもバランスをとろうとする様子も見られた。

１回目の《クネクネの音楽》の時は、音を感じ取り、講師の真似をして両腕を使ってクネクネした動きをした。さらに全身を使って本人の独自な動きに変化していき、動きと共に声を発して動く様子は、正に本人独自の表現であると考えられる。

２回目は、講師の真似をして、どじょうがお辞儀をしているような様子を見せ、手先だけでなく、肘を使う姿が見られ、保育者にクネクネしている姿を伝えたいしぐさから、他者との表現を楽しんでいる姿が見受けられた。また、Ａちゃんの表現したい気持ちが身体能力を超えた時に、保育者がそれを汲み取りそっと手を差し出し支える姿も見られた。

（２）わらべ歌《こまんか》

講師が《こまんか》に合わせて指先を動かす活動に対し、Ａちゃんは人差し指や小指で左右に波を表現する動きを模倣しようとして一生懸命考えている様子が見られた。大きい《こまんか》の時は、両腕を左右に動かすところを片腕で左右に動かすところから取り組んでいる。両腕で弧を描くことが難しいようだが、その動きに対し集中して取り組もうとしている姿が見られた。その中で徐々にジャンプする姿も見られるようになった。

２回目の活動では、１回目と同じ動きができるか模索している様子が見られた。講師の声かけには、保育者の指示がなくても耳を傾け、動きの模倣をしようと準備を始めるような動きへ発展している。音楽も理解できるようになり、音楽

の強弱に合わせた動きへと変化してきた。もっと大きな動きを求めた時は、座った状態から、膝立ち、そして立ち上がって大きなジャンプを見せようとしていた。

活動の途中で、Ａちゃんはスカーフを使用して《こまんか》の「波」を表現しようとした。スカーフは対角線が約１ｍ あり、１～２歳児が端を持つと床についてしまうほど長いため、スカーフをどのように扱えばよいのか試行錯誤しているように見受けられた。スカーフを持って周りを見渡し、スカーフを滑らかに動かしている友達の様子を見た後、自分の手元を見ながら思考した結果、スカーフを短く持ち、音楽のフレーズに合わせながら振ることができるように工夫していた。音楽を聴きながらスカーフを使って表現する思考の芽生えが見られる。

（３）即時反応「おばけ」

Ａちゃんは頭にスカーフを被せて、「おばけ」のしぐさを講師に示し、ヨロヨロと歩き出す。しかし《元気な音楽》に変わると、スカーフを外し、足の裏で踏みしめるように音を聴きながら歩くようになった。これは、音楽に対する興味を示す動きへと変化し、自主的に動きたい意志の表れであることが考えられる。さらに音楽を止めると数秒後に「止まった！」と言って講師を見たり、膝を上下に揺らし、ピアノの音に注目している様子が窺えた。《元気な音楽》に変わると、スカーフを手に持ち替え、ピアノの音に合わせて振り下ろすタイミングにアクセントをつけながら、リズムを取るように変化した。次にピアノの音が止まると「止まった！止まった！」と自ら言葉を発し、「止まる」ことへの喜びを体だけでなく言葉でも感じて表現している。《おばけの音楽》に変わると、持っていたスカーフをゆっくり被り、両手を前に出して他のお友達と近づき、関わりを求めている姿があった。そして保育者に「わぁ」と声を発しながら近づく、笑顔でアイコンタクトをとる等、自分が表現していることを受け止めてもらいたい、そして満足している気持ちを受け止めてもらいたい意思表示が見られる。

２回目のスカーフを使った活動でも、スカーフを被って歩くところから始めており、スカーフの感触や色合いを楽しんでいる様子が見られる。《元気な音楽》の時は４分音符のリズムに合わせてジャンプをしているが、《おばけの音楽》に変わると「おばけ」のポーズを作り、膝を曲げ、腰を丸めながら音楽に合わせて動き、保育者のところへスカーフを落とさないように忍び足で歩く様子は、自分でおばけになりきって表現している姿と言える。

今回のリトミック活動では、活動経験を重ねることで、模倣の動きから自己表現に変化していくＡちゃんの様子がわかった。
また、《こまんか》の小さい波を表現する際には、講師がそっと小声で伝えることによって、Ａちゃんは体も小さく見せようと自分の顔の前で小指を使った小さい波の動きをして楽しんでいた。さらに大きな波について話す講師の声は、決して大声ではないが、エネルギーを感じるようなニュアンスがあり、子どもが両手を指先まで広げ、自ら背伸びをしたり全身を大きく使う工夫のある動きへと発展し表現していた。このことから、講師のアプローチにも抑揚があることを受け止め、強弱に合わせた動きの変化など、音楽を感じる姿が確認できた。

子どもの遊びは、心身の発達をもたらす感覚・運動から刺激を受け、自己の遊びを発展させることにつながっていく。さらに新しい機能を獲得する学習では、相手と同じ動きをしたい意思のあらわれである模倣が動作中に表れ、次に見立て遊び、やがてごっこ遊びへと発展する。今回注目したＡちゃんは、この遊びのプロセスを日々の生活の中で積み重ねているからこそ、リトミック活動の中においても表現する力が大いに発揮できているのではないかと考えられる。

８．終わりに

本稿では、歩く、走る、跳ぶなどの運動機能が発達し始め、動きの模倣を楽しむようになる２歳児に焦点を当て、主にＡちゃんの動きに注目をして分析を行なった。今回、他の２歳児の様子について取り上げることができなかったため、今後は他の子どもの動きも引き続き分析していきたい。リトミック活動は、子どもが、内に秘めている能力や性質などを存分に表に出すことが可能であり、そのことが日々の健やかな子どもの成長につながり、しあわせな未来へ導くことができると考えられる。

謝辞

本論文は、2023 年度しあわせ研究費（研究テーマ：子どものリトミックを通しての表現活動に関する研究―リトミック活動の身体的影響について―）の助成を受けたものです。

この研究を行なうにあたって、武蔵野大学附属慈光保育園の先生方に研究の趣旨をご理解いただき、１～２歳の園児さんにご協力いただきました。

ここに深く御礼申し上げます。

〈引用文献〉

[1] 河原紀子・港区保育を学ぶ会(2018)『0 歳~6 歳 子どもの発達と保育の本 第 2 版』学研プラス,p.35.

[2] 無藤隆(2018)『事例で学ぶ保育内容 <領域>表現』萌文書林 新訂版,p.59.

[3] 保育所保育指針（平成 29 年厚生労働省告示第 117 号）

[4] 中根佳江・瀧川光治(2021)「保育の場における身体表現に関する研究動向 ―リトミック活動を通して―」『大阪総合保育大学紀要 15 号』pp.1-8.

[5] 高牧恵里・今福理博(2021)「保育園におけるリトミック活動の実践と 1,2 歳児の模倣行動の発達的変化の検討」『武蔵野教育學論集第 10 号』pp.77-84.

[6] 小竹沙織・馬場訓子・髙橋慧・渡邊祐三・髙橋敏之(2020)「子どもの主体的な身体表現を引き出すリトミックの保育実践研究(第一報) ―保育施設における 1・2・3 歳児学級の事例を中心にして―」『岡山大学教師教育開発センター紀要 10』pp.183-197.

[7] 湯汲英史(2018)『０歳～6 歳　子どもの発達とレジリエンス 保育の本 ～子どもの「立ち直る力」を育てる～』学研プラス,p.20.